

# 妙智會

11月14日 秋の大法要  
 聖地・大道場(ライブ配信)  
 宮本法嗣先生ご指導

Vol. 79  
 2022. 11. 22  
 1/2

本日は11月14日、秋の大法要です。

皆さまのお陰さまで素晴らしい天候のお恵みを頂き、今日までのご修行に心より感謝申し上げます。

本日は宮本孝平大恩師さまのご命日でありまして、亡くなった日(14日)の数字、また生まれた日の数字というのはとても深い意味があります。

法華経でいいますと「妙法蓮華経安楽行品第十四」であり、大恩師さまのご生涯そのものです。

この法華経の14番には、お釈迦さまは、特にこの末法の時は、非常に優しい言葉で教えにぶれないようにしなさい、そして、修行の中で自分を高めるとともに、人との交わりの中で自分を作っていく事が必要ですとあります。

大恩師さまは、笑顔が素敵で遠くにいても輝いて見え、そして言葉も素晴らしい方だったと聞いたことがあります。

大恩師さまは元々、法華経を学ばれていて、14番というものをとても強く感じ取られてご自分の人生の指針としてご修行をされ、さらにはその14という日に亡くなられたのです。

会主さまも大導師さまも女先生も、ご自分で法華経の中の縁のある事をしっかりとご存じでそういう生き方をされ、その縁のあ

る日に亡くなられているのです。

私はお四方のご生涯を考えたときに、最高の成仏というのは、生きてる間に法華経を学び、実践して、その一番自分の縁のある日にちゃんと霊界に旅立つということなのだと思っています。

また、人というのは良い事よりも悪い事の方が多いですが、私たちはそこから逃げずに、それをしっかりと受け止め、強い意志で修行をしていく事が肝要です。

そして大恩師さまは、愚痴や不平を仰る事はありませんでした。

厳しい修行の中でも「ありがたい。素晴らしい」とニコニコされ、愚痴を言っている人がいるとその場から離れていました。

会主さまからは「愚痴を聞く事によって相手をさらに悪くしてしまいます。聞かない事も慈悲です」と頂いております。

愚痴は言わない、聞かないことが、大恩師さまが残された教えの一つです。

我々は生きてるんです。どんなに辛いことがあっても乗り越えましょう。そのためにこの教えがあります。

そして、乗り越えるためにはいつも優しい顔と優しい言葉、何があっても揺るがない精神、そして人間関係、愚痴を言ってはいけないということを、今日皆さんはしっかりと受け止めて、実践して頂くことをお願いして、秋の大法要の私の指導といたします。